



# 明けまして おめでとうございます

皆様のご健康とご多幸をお祈りします。  
本年もよろしくお願いたします。



静まりかえっていた校舎に、子ども達の元気な姿が戻ってきました。

今日から3学期がスタート。本年も、保護者の皆様・地域の皆様のご支援とご協力を賜りながら、港が丘小学校の子どもたちの健やかな成長のために、職員一同、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願致します。

本日の始業式で子ども達に、3学期は、一つ上の学年になる新しいスタートを切るための大事な準備期間で、目標をしっかりともち、その達成を目指して取り組むべきことを着実に実行していくことの大切さについて話しました。一人一人の子どもに達成感や充実感を味わわせ、自信をもって次の学年のスタートが切れるように指導していきたいと思っています。ご家庭でも、励ましの声かけをしていただくと幸いです。

## 3学期の学校経営の重点

全教職員で2学期の教育活動を振り返り、その成果と課題を踏まえて3学期は、以下の点に重点を置いて学校教育を進めたいと考えます。

- 学びの基盤づくり[基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん、あいさつ、整理・整頓、名札の着用）、体力向上、学習習慣（家庭学習を含む）、言葉の基礎力等]の強化
- 一時間一時間の授業を大切にされた確かな学力（基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着、思考力・判断力・表現力育成等）の向上



## 1・2月の主な行事予定

今月の月目標：寒さに負けない元気な体をつくろう

1月 9日(月)	成人の日	1月 24日(火)	発育測定(2年、コスモス学級)
10日(火)	始業式	25日(水)	発育測定(1年)
11日(水)	給食開始	26日(木)	クラブ活動(3年生見学)
12日(木)	北九州市学力状況調査(5年) CRT検査(1~4年) 委員会活動(5~6年)	28日(土)	土曜日授業(持久力大会)
		2月 1日(水)	新1年生入学説明会、体験入学
17日(火)	思春期健康教室(4年) 健康相談	2日(木)	委員会活動(5~6年)
		3日(金)	中学校入学説明会(6年)
18日(水)	発育測定(6年)	7日(火)	薬物乱用防止教室(6年)
19日(木)	発育測定(5年) クラブ活動(4~6年)	9日(木)	代表委員会
		11日(土)	建国記念の日
20日(金)	発育測定(4年) スクールカウンセリング	16日(木)	クラブ活動(4~6年)
		18日(土)	土曜日授業(授業参観・学級懇談)
23日(月)	学校給食週間(~27日まで) 発育測定(3年、ひまわり学級)	23日(木)	クラブ活動(4~6年)
		❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀	

1月28日(土)の土曜授業では「持久力大会」を開催します。今年は持久走です。体育科の時間をはじめ、中休みにも練習をした成果を発揮し、自分の体力に合ったペースで最後まで根気強く走ってくれることを期待しています。各学年の出場時間など、詳細については、後日配布するプリントでご確認ください。当日は、子ども達の頑張りに大きなご声援をお願いいたします。



## インフルエンザ予防と対応



本年度は、北九州市内で2学期にインフルエンザにより学級閉鎖となった学校もありましたが、今後流行することが予測されます。予防等については、①規則正しい生活。②手洗い・うがい・換気の励行。③日常的に免疫力をつける（栄養バランスのとれた食事、適度な運動、過度な暖房を避ける等）。④人混みの多い場所へ行かない等。また、罹患した場合は、早めに病院で受診し、安静に努めるようにしてください。学校でも予防に取り組みますが、急なお迎えや午後からの早期下校も考えられます。その場合は、ご協力をお願いいたします。

## 学 校 給 食 週 間



毎年1月24日から30日までの1週間（本校では、給食委員会の取組の関係から本年度は23日から27日に変更）は、「学校給食週間」です。これは、学校給食の意義、役割等について児童生徒や教職員、保護者、地域住民等の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図ることを目的として定められたものです。

本校でも、日頃の給食時間の指導に加え、食に関する指導を充実させたいと考えています。学校における食育については、右の6つの観点から学習するようになっていきます。

### 食に関する指導の観点

- ① 食事の重要
- ② 心身の健康
- ③ 食品を選択する能力
- ④ 感謝の心
- ⑤ 社会性
- ⑥ 食文化

本年度は、1学期から給食委員会の児童が「お残しゼロ」の取組を積極的に行っていることもあり、「感謝の心」に特に重点を置いた給食週間にしたいと思います。

FAO（国連食糧農業機関）の調査では、世界の栄養不足人口（健康と体重を維持し、軽度の活動を行うために必要な栄養を十分に摂取できない状態）は、減少傾向にあるものの依然として8億7千万人、世界人口の約8人に1人の割合と推計されています。

日本では、年間約1,700万トンの食品廃棄物が排出され、このうち、本来食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は、年間約500～800万トン含まれると考えられています。これは、食料援助を必要とする国々に世界全体から送られている食料援助量（約400万トン）の約2倍にあたるそうです。日本は、食料自給率（カロリーベース）が低く、約6割を海外からの輸入に頼っている国ですから、“もったいない”と同時に申し訳ないことだとも思われてなりません。



「食品ロス削減に向けて～『もったいない』を取り戻そう！～」  
平成25年9月農林水産省 P4より抜粋

食料は、私たちの命の源であり、土地、水、エネルギー、肥料・飼料、労働力など多くの資源を投入して生産された大切なものです。無理をして食べることは禁物ですが、身体の健康だけでなく、食べ物（動植物の命をいただくこと）や食べ物の生産・流通・調理等に携わる方々への感謝（「ごちそうさま」に込められた思い）、共食の楽しさなど、心の健康、さらには、残菜を出すことによる環境への影響などの点からも、発達の段階に応じた指導をしていきたいと思っています。

学校給食週間を機会に、ご家庭でも今一度、お子様と一緒に食べ物や食生活について考え、場合によっては工夫改善をしてみられてはいかがでしょうか。